



2027年3月期第1四半期 決算説明資料

2026.07.30

TISI株式会社

© 2026 TISI Inc.

- TISIの河村でございます。よろしくお願いいたします。
- 今回は、7月1日のTISとインテックの合併後、TISIとして初めての決算説明会となります。
- それでは、本日15:30に発表しました、2027年3月期第1四半期の決算の内容についてご説明いたします。

2027年3月期第1四半期 業績概要

- ・前年同期比増収増益。
- ・営業利益率は0.5ポイント向上し12.2%に。
- ・受注高・受注残高は「ソフトウェア開発」が牽引し、力強く増加。

- ・ はじめに、2ページをご覧ください。
- ・ 今回の決算のハイライトです。
- ・ 2027年3月期第1四半期の業績については、前年同期比増収増益となりました。特に営業利益は一過性の要因による押し上げ効果もあって力強い着地となりました。
- ・ 営業利益率は、0.5ポイント上昇し、12.2%となりました。
- ・ また、受注高・受注残高についても「ソフトウェア開発」が牽引し、力強く増加しています。
- ・ 以上から、2027年3月期も計画達成に向けて順調なスタートが切れたと言えます。

- 1 2027年3月期第1四半期 業績概要
- 2 2027年3月期 業績見通し
- 3 参考資料

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ(TISIおよびグループ会社)が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・各四半期会計期間(3カ月)の数値は累計期間の差引により算出しています。

・各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。(P.17除く)

(説明省略)



- 1 2027年3月期第1四半期 業績概要
- 2 2027年3月期 業績見通し
- 3 参考資料

(説明省略)

2027年3月期第1四半期 業績ハイライト(前年同期比)

- 顧客のデジタル変革をはじめとするIT投資需要への的確な対応やサービス提供の推進による事業拡大等が牽引し、増収増益。

(百万円)	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	140,316	150,111	+9,794	(+7.0%)
営業利益	16,353	18,347	+1,993	(+12.2%)
営業利益率	11.7%	12.2%	+0.5P	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,520	14,409	+1,889	(+15.1%)
四半期純利益率	8.9%	9.6%	+0.7P	—

・営業外収益: 1,088百万円(前年同期比 +73百万円)
→受取配当金 775百万円 等

・特別利益: 2,849百万円(前年同期比 +794百万円)
→投資有価証券売却益 2,488百万円 等

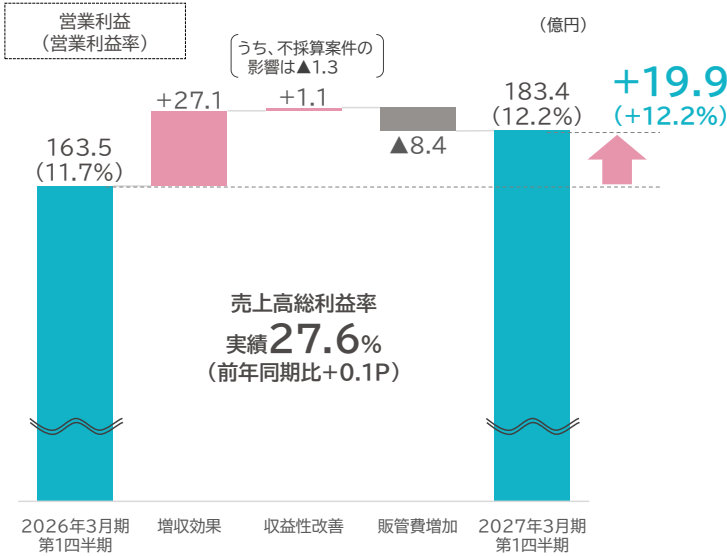
・営業外費用: 1,010百万円(前年同期比 +706百万円)
→支払手数料 411百万円
支払利息 243百万円 等

・特別損失: 197百万円(前年同期比 +141百万円)

- ・ それでは、5ページをご覧ください。2027年3月期第1四半期の業績概要です。
- ・ 引き続き良好な事業環境を背景に事業拡大を進め、増収増益となりました。
- ・ 売上高は前年同期比7.0%増の1,501億円。
- ・ 営業利益は前年同期比12.2%増の183億円となり、営業利益率は0.5ポイント上昇して12.2%となりました。
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は営業利益の増加に加えて、政策保有株式のさらなる縮減に伴う特別損益(純額)の改善により前年同期比15.1%増の144億円となりました。

2027年3月期第1四半期 営業利益要因別増減分析(前年同期比)

- 継続的な成長投資に加えて前年同期比+10億円の報酬投資を実施する中で、増収に伴う増益が牽引し、営業増益を達成。売上高総利益率は27.6%に向上。



<販管費増減>		前年同期比
連結子会社異動影響等		+1.6
成長投資		+1.0
施策推進		+4.1
合併関連		+1.9
その他経費		▲0.3
計		+8.4

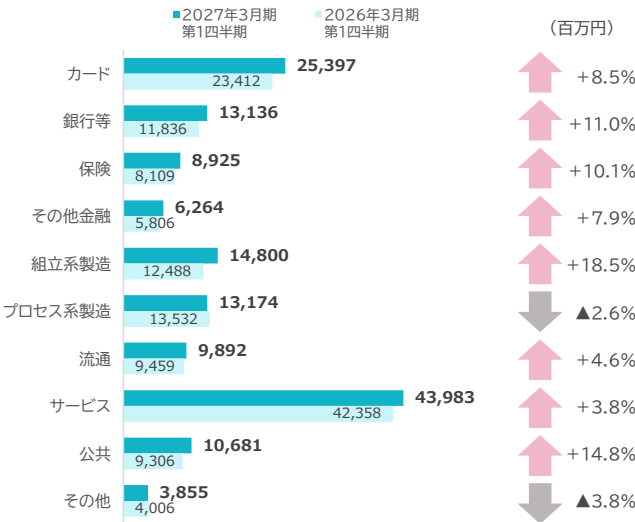
<成長投資> (人材投資・研究開発投資・ソフトウェア投資)		前年同期比
売上原価		+1.0
販管費		+1.0
計		+2.1

- 6ページは営業利益の要因別増減です。
- 継続的な成長投資に加えて、報酬投資は前年同期比+10億円と強化する中で、増収に伴う増益が牽引し、営業増益を達成しました。
- また、売上高総利益率は、前年同期比0.1ポイント上昇の27.6%となりました。
- 改善幅が小幅にとどまった主な要因は、先行投資強化や海外事業の状況に伴うオフファリングサービスの収益性低下等であり、それ以外のセグメントについては産業ITや広域ITソリューションをはじめとして堅調な状況にあります。
- なお、当第1四半期の不採算案件は2.4億円で抑制できています。
- 冒頭で申し上げた一過性の要因としては、日本ICSの駆け込み需要による増益や産業ITの想定を上回る好調さ、販管費の期ズレ等が挙げられ、合計で10億円程度の利益押し上げ効果があったとみています。

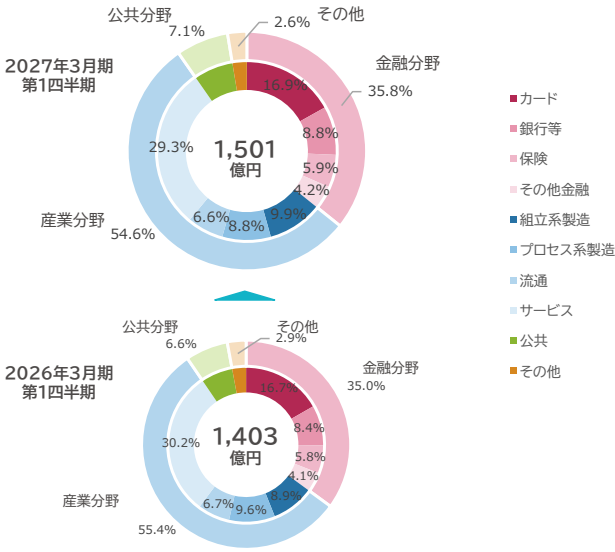
2027年3月期第1四半期 顧客業種別売上高

- 金融系は全般的に好調。産業系は組立系製造が大きく伸長し、サービスも堅調。公共も力強く伸長。

業種別売上高



業種別売上高構成比



- 7ページは顧客業種別売上高の状況です。
- 金融系は、全般的に好調でした。
- 産業系では、「組立系製造」が牽引しています。
- 公共系についても力強く伸長しており、全体として幅広い業種で堅調な需要を取り込めています。

2027年3月期第1四半期 主要セグメント別損益状況(前年同期比)

(百万円)		2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比		概況
オフアリングサービス	売上高	36,246	39,831	+3,585	(+9.9%)	基盤系、決済分野をはじめとするIT投資需要の拡大や海外事業の寄与により増収の一方、決済分野における先行投資の増加、海外の収益性低下等の影響により減益。
	営業利益	1,730	1,643	▲87	(▲5.0%)	
	営業利益率	4.8%	4.1%	▲0.7P	—	
BPM	売上高	10,686	11,050	+363	(+3.4%)	注力領域と位置付けるDX事業をはじめとする案件獲得等により増収増益。
	営業利益	1,423	1,437	+13	(+1.0%)	
	営業利益率	13.3%	13.0%	▲0.3P	—	
金融IT	売上高	23,631	25,801	+2,169	(+9.2%)	クレジットカード系の根幹先顧客への深耕やモダナイゼーション関連等の高付加価値ビジネスの推進により増収増益。
	営業利益	2,979	3,528	+549	(+18.4%)	
	営業利益率	12.6%	13.7%	+1.1P	—	
産業IT	売上高	32,349	34,077	+1,727	(+5.3%)	サービス・製造をはじめとした幅広い業種におけるIT投資拡大により増収増益。
	営業利益	5,107	6,201	+1,093	(+21.4%)	
	営業利益率	15.8%	18.2%	+2.4P	—	
広域ITソリューション	売上高	43,800	45,855	+2,054	(+4.7%)	生損保、医療系、モダナイゼーションを含むその他産業系顧客を中心としたIT投資需要の拡大により増収増益。
	営業利益	4,837	5,271	+433	(+9.0%)	
	営業利益率	11.0%	11.5%	+0.5P	—	

- ・ 8ページは主要なセグメント別の状況です。
- ・ 「オフアリングサービス」は、基盤系、決済分野をはじめとするIT投資需要をしっかりと取り込めたことや、海外事業が寄与し増収となりました。一方で、決済分野における先行投資の強化や海外事業の収益性低下の影響により減益となり、営業利益率も低下しました。
- ・ 「BPM」は、注力領域と位置付けているDX事業をはじめとする案件が獲得できた等により増収増益です。
- ・ 「金融IT」は、クレジットカード系の根幹先顧客への深耕やモダナイゼーション関連等の高付加価値ビジネスにより増収増益となりました。
- ・ 「産業IT」は、サービス・製造を始めとした幅広い業種でのIT投資需要の拡大にしっかり対応し、増収増益となりました。開発プロジェクトを円滑に進めることができた結果、この四半期における営業利益率は18.2%と非常に高い水準となりました。
- ・ 「広域ITソリューション」は、生損保、医療系に加えて、モダナイゼーション関連も含めたその他産業系顧客を中心としたIT投資需要の拡大により増収増益となりました。

2027年3月期第1四半期 受注状況(当期受注高)

- 当期受注高はソフトウェア開発が牽引し、前年同期比11.3%増加。
- オファリングサービス、産業ITのソフトウェア開発が大幅に伸長の一方、金融ITは減少。

(百万円)		2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比	
当期受注高		100,352	111,700	+11,347	(+11.3%)
うちソフトウェア開発		70,123	78,919	+8,796	(+12.5%)
主要セグメント別					
オファリング サービス	当期受注高	19,142	27,158	+8,016	(+41.9%)
	うちソフトウェア開発	13,807	18,319	+4,512	(+32.7%)
BPM	当期受注高	9,897	10,224	+326	(+3.3%)
	うちソフトウェア開発	3,152	3,453	+300	(+9.5%)
金融IT	当期受注高	13,135	12,527	▲608	(▲4.6%)
	うちソフトウェア開発	12,208	11,266	▲942	(▲7.7%)
産業IT	当期受注高	24,298	27,961	+3,663	(+15.1%)
	うちソフトウェア開発	19,624	23,930	+4,306	(+21.9%)
広域IT ソリューション	当期受注高	33,878	33,828	▲50	(▲0.1%)
	うちソフトウェア開発	21,330	21,949	+618	(+2.9%)

- 9ページからは受注状況についてのご説明です。
- 当期受注高はソフトウェア開発が牽引し、前年同期比11.3%増と力強く増加しました。
- セグメント別では「オファリングサービス」と「産業IT」のソフトウェア開発が、いずれも前年同期比で2桁の伸び率と力強く増加しました。
- 「金融IT」のソフトウェア開発が前年同期比で減少しましたが、四半期における受注タイミング等の波によるものと考えています。
- 「金融IT」を含めて、全般的に受注環境は良好ですので、半期や通期ではしっかり積み上げていけると見ています。

2027年3月期第1四半期
受注状況(期末受注残高)

- 期末受注残高はソフトウェア開発が牽引し、前年同期比9.7%増加。
- オファリングサービス、産業IT、広域ITソリューションのソフトウェア開発が大きく伸長。

(百万円)		2026年3月期 第1四半期末	2027年3月期 第1四半期末	前年同期比	
期末受注残高		157,304	172,573	+15,269	(+9.7%)
うちソフトウェア開発		104,856	118,105	+13,249	(+12.6%)
主要セグメント別					
オファリング サービス	期末受注残高	34,507	41,047	+6,540	(+19.0%)
	うちソフトウェア開発	18,526	24,629	+6,102	(+32.9%)
BPM	期末受注残高	7,519	8,083	+564	(+7.5%)
	うちソフトウェア開発	7,302	7,799	+497	(+6.8%)
金融IT	期末受注残高	30,659	31,784	+1,124	(+3.7%)
	うちソフトウェア開発	20,728	20,022	▲706	(▲3.4%)
産業IT	期末受注残高	35,114	39,461	+4,347	(+12.4%)
	うちソフトウェア開発	26,732	30,220	+3,488	(+13.1%)
広域IT ソリューション	期末受注残高	49,503	52,195	+2,692	(+5.4%)
	うちソフトウェア開発	31,566	35,433	+3,866	(+12.3%)

- 10ページは期末受注残高の状況です。
- ソフトウェア開発が牽引し、受注残高は、前年同期比9.7%増加となりました。
- 特に「オファリングサービス」「産業IT」「広域ITソリューション」のソフトウェア開発が堅調に積み上がっています。



- 1 2027年3月期第1四半期 業績概要
- 2 2027年3月期 業績見通し
- 3 参考資料

- 続きまして、2027年3月期の通期業績見通しについてご説明いたします。

2027年3月期 業績予想ハイライト ※変更なし

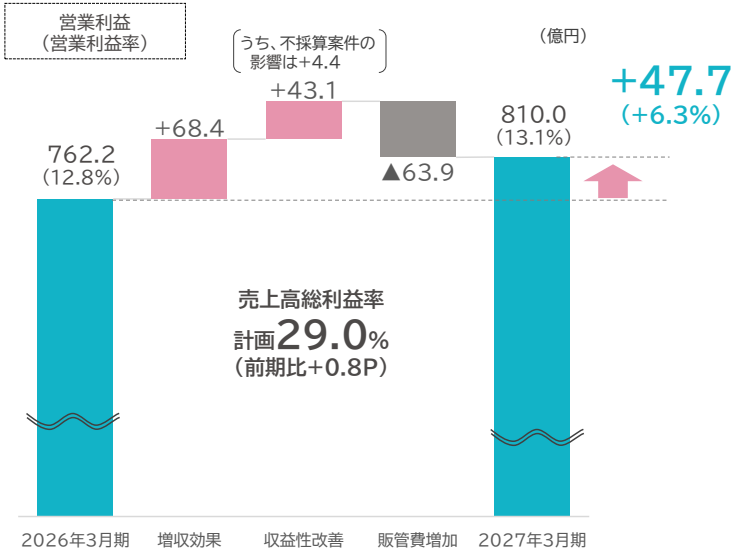
- 中期経営計画の目標達成に向けて、投資を継続しながら事業拡大を図り、増収増益を計画。
- 投資有価証券の売却方針に基づき、想定される特別利益50億円を織り込み、当期純利益は大幅増の見通し。中期経営計画（2024-2026）の重要な経営指標であるEPS CAGR10%及びROE16%超の達成も見込む。

(百万円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 計画	前期比	
売上高	596,479	620,000	+23,520	(+3.9%)
営業利益	76,229	81,000	+4,770	(+6.3%)
営業利益率	12.8%	13.1%	+0.3P	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	46,624	57,000	+10,375	(+22.3%)
当期純利益率	7.8%	9.2%	+1.4P	—
1株当たり当期純利益(円)	204.91	271.70	+66.79	(+32.6%)
ROE	14.0%	17.5%	+3.5P	—

- 12ページをご覧ください。2027年3月期の業績見通しです。
- ここまでお伝えしてきたように第1四半期の業績は力強い着地となりましたが、一過性の要因で押し上げられている面があることを考えれば、概ね通期計画に沿った推移であると認識しています。
- そのため、現時点で2027年3月期の通期業績予想の変更はありません。
- 売上高は前期比3.9%増の6,200億円、営業利益は合併関連費用約16億円を織り込んだうえで、前期比6.3%増の810億円です。
- また、当期純利益については、投資有価証券の売却方針に基づき、想定される特別利益50億円を織り込み、前期比22.3%増の570億円です。
- 現時点では第2四半期の受注状況も、第1四半期ほどの強さではありませんが、堅調であると見込んでいますので、引き続き、着実に業績へとつなげ、まずは通期計画達成をより確かなものにしてまいります。
- なお、今回、参考資料として、16ページにAIによる事業成長の加速に向けた取り組みの一例をご紹介します。
- 今後も、AIをはじめとする成長領域の取り組みを加速してまいります。
- 以上で、説明を終了いたします。

2027年3月期
営業利益要因別増減分析(予想) ※変更なし

- 継続的な成長投資に加え、前期比+40億円の報酬投資を見込む中でも、高付加価値ビジネスの提供や生産性向上施策の推進等により、営業増益を見込む。



<販管費増減>

	前期比
連結子会社異動影響等	+3.6
成長投資	+7.5
施策推進	+28.4
合併関連	+15.1
その他経費	+9.2
計	+63.9

<成長投資>

(人材投資・研究開発投資・ソフトウェア投資)

	前期比
売上原価	+7.0
販管費	+7.5
計	+14.5

(説明省略)

2027年3月期
主要セグメント別損益状況(予想) ※変更なし

(百万円)		2026年3月期 実績	2027年3月期 計画	前期比		概況
オフアライン サービス	売上高	160,574	164,100	+3,525	(+2.2%)	決済、基盤系を中心としたIT投資需要を取り込み増収増益。 海外事業は構造転換等により収益性向上を図る。
	営業利益	10,442	11,250	+807	(+7.7%)	
	営業利益率	6.5%	6.9%	+0.4P	—	
BPM	売上高	44,092	44,300	+207	(+0.5%)	注力領域として位置付けるDX事業の伸長等により増収。一方、 成長領域への投資強化により減益。
	営業利益	6,397	6,250	▲147	(▲2.3%)	
	営業利益率	14.5%	14.1%	▲0.4P	—	
金融IT	売上高	98,730	108,500	+9,769	(+9.9%)	既存顧客深耕やモダナイゼーションの拡大を含めた新規顧客 の需要取り込みにより増収増益。
	営業利益	12,729	14,900	+2,170	(+17.0%)	
	営業利益率	12.9%	13.7%	+0.8P	—	
産業IT	売上高	133,396	137,000	+3,603	(+2.7%)	既存顧客深耕や業界軸の強み強化・サービス拡大、ERP関連 のIT投資需要の取り込みにより増収増益。
	営業利益	22,507	23,100	+592	(+2.6%)	
	営業利益率	16.9%	16.9%	+0.0P	—	
広域IT ソリューション	売上高	184,238	191,000	+6,761	(+3.7%)	ネットワーク関連の需要拡大に加え、産業系、金融系の幅広い 顧客のIT投資需要等の取り込み、および不採算案件の抑制に より増収増益。
	営業利益	23,328	25,000	+1,671	(+7.2%)	
	営業利益率	12.7%	13.1%	+0.4P	—	

(説明省略)

1 2027年3月期第1四半期 業績概要

2 2027年3月期 業績見通し

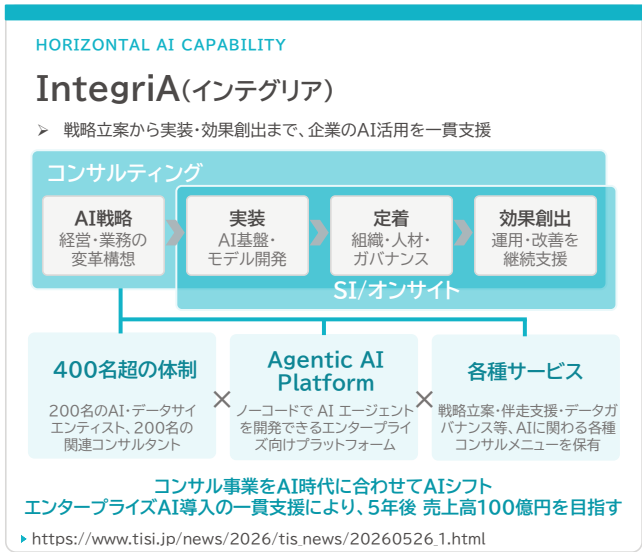


3 参考資料

(説明省略)

AIによる事業成長の加速に向けた取り組み例

- AI活用を戦略立案から実装・効果創出まで一貫して支援する新ブランド「IntegriA」の立ち上げや、決済領域に特化したVertical AIと専門人材を掛け合わせた「PAYCIERGE」の次世代決済プラットフォーム戦略の始動など、お客さまの業務変革と新たな価値創出を推進。



(説明省略)

2027年3月期第1四半期
主要セグメント別売上高(事業別) ※外部顧客向け

(百万円)		2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年同期比	
オフアリングサービス		32,740	35,770	+3,029	(+9.3%)
	ソフトウェア開発	13,368	14,313	+945	(+7.1%)
	運用・クラウドサービス	10,779	12,150	+1,371	(+12.7%)
	製品・ソフトウェア販売	8,593	9,307	+713	(+8.3%)
BPM		10,322	10,734	+411	(+4.0%)
	ソフトウェア開発	3,376	3,792	+416	(+12.3%)
	運用・クラウドサービス	6,551	6,585	+33	(+0.5%)
	製品・ソフトウェア販売	394	356	▲38	(▲9.7%)
金融IT		23,297	25,217	+1,919	(+8.2%)
	ソフトウェア開発	12,913	13,728	+814	(+6.3%)
	運用・クラウドサービス	9,483	10,330	+846	(+8.9%)
	製品・ソフトウェア販売	901	1,158	+257	(+28.6%)
産業IT		32,217	33,928	+1,711	(+5.3%)
	ソフトウェア開発	22,319	23,656	+1,337	(+6.0%)
	運用・クラウドサービス	6,197	6,310	+112	(+1.8%)
	製品・ソフトウェア販売	3,700	3,961	+261	(+7.1%)
広域ITソリューション		41,211	43,905	+2,693	(+6.5%)
	ソフトウェア開発	20,986	22,398	+1,411	(+6.7%)
	運用・クラウドサービス	15,355	15,935	+579	(+3.8%)
	製品・ソフトウェア販売	4,869	5,571	+702	(+14.4%)
その他	その他	525	554	+28	(+5.5%)
合計		140,316	150,111	+9,794	(+7.0%)
	ソフトウェア開発	72,963	77,888	+4,925	(+6.8%)
	運用・クラウドサービス	48,367	51,312	+2,944	(+6.1%)
	製品・ソフトウェア販売	18,459	20,355	+1,896	(+10.3%)
	その他	525	554	+28	(+5.5%)

(説明省略)

2027年3月期上期
業績ハイライト・主要セグメント別損益(予想) ※変更なし



(百万円)		2026年3月期 上期	2027年3月期 上期	前年同期比	
売上高		288,525	300,000	+11,474	(+4.0%)
営業利益		35,553	36,500	+946	(+2.7%)
営業利益率		12.3%	12.2%	▲0.1P	—
親会社株主に帰属する四半期純利益		23,726	26,000	+2,273	(+9.6%)
四半期純利益率		8.2%	8.7%	+0.5P	—
主要セグメント別					
オフアライング サービス	売上高	76,070	78,400	+2,329	(+3.1%)
	営業利益	4,667	4,450	▲217	(▲4.7%)
	営業利益率	6.1%	5.7%	▲0.4P	—
BPM	売上高	21,725	21,700	▲25	(▲0.1%)
	営業利益	2,966	2,800	▲166	(▲5.6%)
	営業利益率	13.7%	12.9%	▲0.8P	—
金融IT	売上高	48,078	53,000	+4,921	(+10.2%)
	営業利益	6,162	7,000	+837	(+13.6%)
	営業利益率	12.8%	13.2%	+0.4P	—
産業IT	売上高	65,152	66,500	+1,347	(+2.1%)
	営業利益	10,624	10,700	+75	(+0.7%)
	営業利益率	16.3%	16.1%	▲0.2P	—
広域IT ソリューション	売上高	89,425	92,500	+3,074	(+3.4%)
	営業利益	10,795	11,300	+504	(+4.7%)
	営業利益率	12.1%	12.2%	+0.1P	—

(説明省略)

2027年3月期下期
業績ハイライト・主要セグメント別損益(予想) ※変更なし



(百万円)		2026年3月期 下期	2027年3月期 下期	前年同期比	
売上高		307,953	320,000	+12,046	(+3.9%)
営業利益		40,675	44,500	+3,824	(+9.4%)
営業利益率		13.2%	13.9%	+0.7P	—
親会社株主に帰属する四半期純利益		22,897	31,000	+8,102	(+35.4%)
四半期純利益率		7.4%	9.7%	+2.3P	—
主要セグメント別					
オフアライン サービス	売上高	84,503	85,700	+1,196	(+1.4%)
	営業利益	5,774	6,800	+1,025	(+17.8%)
	営業利益率	6.8%	7.9%	+1.1P	—
BPM	売上高	22,367	22,600	+232	(+1.0%)
	営業利益	3,431	3,450	+18	(+0.5%)
	営業利益率	15.3%	15.3%	+0.0P	—
金融IT	売上高	50,652	55,500	+4,847	(+9.6%)
	営業利益	6,567	7,900	+1,332	(+20.3%)
	営業利益率	13.0%	14.2%	+1.2P	—
産業IT	売上高	68,244	70,500	+2,255	(+3.3%)
	営業利益	11,883	12,400	+516	(+4.3%)
	営業利益率	17.4%	17.6%	+0.2P	—
広域IT ソリューション	売上高	94,812	98,500	+3,687	(+3.9%)
	営業利益	12,533	13,700	+1,166	(+9.3%)
	営業利益率	13.2%	13.9%	+0.7P	—

(説明省略)

2027年3月期第1四半期
プレスリリース/お知らせ①



発表日付	タイトル
2026年4月1日	人事異動に関するお知らせ
2026年4月2日	AJS、業務データ分析で全体最適化へ導く「ビジネスプロセス変革ソリューション」を提供開始
2026年4月6日	フェアウェイソリューションズとインテック、製造業向けの需給計画ソリューション「Φ-Pilot」のS&OP機能を共同開発
2026年4月7日	TISと東和薬品、広尾病院に「ヘルスケアパスポート」を導入
2026年4月9日	UiPath社の『UiPath Community MVP 2026』にTIS社員が認定
2026年4月21日	TIS、AI時代の情報セキュリティ管理をワンストップで支援する「AI対応データ保護管理サービス」を提供開始
2026年4月22日	TIS、電力小売事業者向けにコーポレートPPAの料金計算サービスを開始
2026年4月23日	TIS、「キャッシュレス防犯意識調査」を実施！約6割がキャッシュレスの防犯対策に気を配っていると回答する一方、“パスワード使い回し”も約6割と、意識と行動にギャップが存在
2026年4月23日	インテック、ソフトバンクと、AI搭載ホログラフィック通信プラットフォーム「PROTO」の販売協力契約を締結
2026年4月24日	TIS、AnthropicとAIモデル「Claude」のリセラー契約を締結
2026年5月1日	日本ICS、税理士業界と中小企業の働き方を変える新基盤「ICSデジタルワークプレイス」を提供開始
2026年5月1日	TIS、「UiPath Japan Partner Awards 2025」にてCustomer Centric Partner of the Yearを受賞
2026年5月8日	子会社間の合併に関するお知らせ
2026年5月8日	人事異動に関するお知らせ
2026年5月12日	インテック、統合ログ管理ソフトウェア「LogRevi」にAIログ定義自動化機能を追加
2026年5月13日	AJS、人事評価システム「P-TH+（ピースプラス）」にAILレビュー機能を追加し、人事評価の質の向上と効率化を支援
2026年5月14日	インテック、毎日放送の関西最大級推しイベント「ちゃやまち推しフェスティバル2026」のスポンサーに2年連続就任 ～イベントDXプラットフォームとホログラフィック技術で、エリア一体での運営高度化と体験価値向上を加速～
2026年5月18日	クオリカ、スター精密の新工場に生産性改善システム「KOM-MICS」を導入し、生産性向上と環境負荷低減の両立を支援
2026年5月19日	アステリアとアグレックス、ASTERIA Warp専用「個人情報秘匿システムアダプター」を提供開始
2026年5月22日	インテック、金融機関の預り物件管理業務を効率化する「預り物件管理サービス」のスマートフォン版を提供開始

(説明省略)

発表日付	タイトル
2026年5月22日	インテック、「mcframe Award 2026」で「Excellent Partner」を受賞
2026年5月25日	TIS、経産省のSCS評価制度準拠を支援する「サプライチェーンセキュリティ評価制度対応支援サービス」を提供開始
2026年5月26日	TIS、AI・生成AI活用のノウハウと専門人材を集約し、新ブランド「IntegriA(インテグリア)」を立ち上げ
2026年5月28日	TMI総合法律事務所、TIS、三井住友トラスト基礎研究所が公共施設・インフラにおけるセキュリティトークンに関する共同研究を実施
2026年5月29日	TIS、artienceに「Agentic AI Platform」を導入
2026年5月29日	インテック、DALのパートナー企業を表彰する「DAL Partners Day 2026」で最優秀賞「Partner of the Year」を受賞
2026年6月1日	人事異動、機構改革に関するお知らせ
2026年6月1日	TISとインテック、電話番号を用いた本人認証サービス「電話認証サービス」にトランザクション認証機能を追加
2026年6月3日	バーチャル空間での「三人称視点」が合意形成を促進
2026年6月8日	TIS、GTFS活用でマルチモーダルな公共交通の乗換検索・配車予約を実現
2026年6月9日	TIS、Amazon BedrockとClaude Codeを組み合わせたセキュアなAI開発環境の全社標準化を実現
2026年6月12日	TIS、ワールドインテックに独自の音声解析技術を活用した面接評価AIを導入
2026年6月15日	TIS、AWSと生成AIに関する戦略的協業契約を締結
2026年6月17日	TIS、ServiceNow導入を最適化する「ServiceNowオフファリングサービス」を提供開始
2026年6月18日	新築分譲マンション「プラウドタワー相模大野クロス」におけるエレベーター自動連携掃除ロボットの導入を実現
2026年6月19日	インテックの「UCHITAS/Control Service」、中国電力ネットワークの隠岐諸島におけるデマンドレスポンス実証に採用
2026年6月23日	取締役体制について
2026年6月23日	人事異動に関するお知らせ
2026年6月24日	TIS千代田システムズ、AIによる図面データ生成技術と設備競合可視化技術で特許を取得
2026年6月24日	インテック、石川県のデータ利活用基盤を構築

(説明省略)

ITで、社会の願い叶えよう。



(説明省略)